

鴨川探検！再発見！

第53弾 ～秋の鴨川ウォーク 水辺の自然観察会～



日時 2019年10月20日(日)
場所 京都市左京区 鴨川左岸
天候 晴れ
参加者 大人 15名 子供 19名 スタッフ 6名 合計40名

天候に恵まれて観察会には最適の日となった。参加者は親子対象ということで、多くの子供が虫取り網を持ってやってきた。この時期はバッタやコオロギが成虫となって繁殖期を迎えている。鴨川の河川敷に降りると、コバネイナゴが多くいて、子供たちが夢中で取り始めた。素手でも捕まえることは可能だ。女の子も恐れずに熱中していた。



オンブバッタを確認してみるとほとんどがアカハネオンブバッタだった。近くで大きな声で「おんぶしているのゲット」「見て、見て」と自慢げに母親に見せていた。

虫取りを始めた場所では圧倒的にコバネイナゴが多かったが、そこから100メートルほど下流へ行くとクビキリギスが急に目立つようになった。僅かな場所の違いで棲んでいる虫も変わるのかもしれない。クビキリギスは口が鋭く噛まれると少し痛いので扱いに注意するよう皆さんに伝えた。



河川敷は犬の散歩やジョギングに最適な公園となっているので、雑草の背丈が伸びるとすぐに草は刈り取られてしまう。その度バッタたちは右往左往して逃げまどっている。こんな過酷な環境でも毎年バッタなどの姿を見ることができるのは、したたかに次の世代へ命をつないでいるからだ。



虫取りに夢中になって草むらに入っただめズボンに引っ付き虫がいっぱいくっついてしまった。にもかかわらず結構うれしそう。

オオオナモミの実を投げる的としてフェルトを長方形に切って使うようになって10年ほど経つが、少しずつ進化を続けている。始めた頃は、ダーツの的のように中心部を高得点に、円形に3つの輪を作った。投げる方はやはり一番得点の高い真ん中をめがけて投げることになる。

今回は趣向を変えて、フェルトにアレチヌスビトハギの実で文字を書いてもらうという企画となった。今までとは全く違う発想で子供たちも喜んで思い思いに字を書いていた。初めて作ったフェルトの的から何の変化もなかったとしても、参加者は毎回変わる。同じことを繰り返しても参加者はマンネリとは捉えることもなく、十分楽しんでもらえるのだが、スタッフ側からすれば、一工夫すれば一層喜んでもらえるのではないかという衝動に駆られるのだろう。日々改善していこうとする努力が参加者をさらに引き付けているのかもしれない。今後どのように変化、進化を遂げるのか楽しみでもある。



何を書こうかと、多くの子供たちが思い思いに挑戦してくれた。親たちはスマホでパチリと我が子の写真を撮ってとてもハッピーな様子だった。

文責（弓削俊彬）